

ハート・オブ・ゴールド

通信



vol.34

2016年1月15日発行

発行/編集 ハート・オブ・ゴールド事務局
本部 〒701-1213 岡山市北区西幸川 895-7
レジデンスアロー 101
TEL&FAX 086-284-9700
E-mail:hginfo@hofg.org

URL : <http://www.hofg.org/>



義足 10km の表彰式



子ども達と一緒にエアロビクス



運動会で綱引きに参加



大縄跳びに挑戦

第20回 アンコールワット国際ハーフマラソン 2015

2015年12月6日(日)、第20回アンコールワット国際ハーフマラソン(以下、AWHM)が、75の国と地域から8,539名の参加者(過去最多)を迎え開催されました。21km、10km、3km、車椅子レースのカテゴリーに分かれスタートし、有森裕子代表をはじめ、日本からも多くのランナーが参加しました。

有森代表は今大会の前夜祭で、これまでの業績を称えられ、カンボジア国王よりムニサラポワン・モハー・セレイワット勲章を授与されました。



また、今大会では、北京パラリンピック走り幅跳びの銀メダリスト、山本篤さんが、義足10kmの部で優勝されました。山本さんは2016年のリオデジャネイロ・パラリンピックにも出場する予定。今回は有森代表から誘われて参加され、カンボジアの障害者ランナーと意見交換をされました。

ハート・オブ・ゴールド(以下、HG)では、日本からスタディツアーとして50名以上が12月4日からカンボジアを訪れ、エイズ撲滅の願いを込めたウォーキングイベント、HGが運営支援をしているニュー・チャイルド・ケア・センター(以下、NCCC)訪問、ランニングクリニックや小学校体育科教育支援の一環である運動会、AWHM等に参加しました。

AWHMは、今年20回目という節目を迎えました。事故や怪我もなく、この大会が継続して、カンボジアの



代表と義足ランナー

平和を世界に発信していくマラソン大会になっていることを心よりうれしく思います。運営自体はカンボジアオリンピック委員会に移譲していますが、HGは引き続き、側面的なサポートをしていきます。

「Come on !」

代表理事：有森 裕子

12月6日早朝、今年もアンコールワットの日の出を待って、世界遺産の中を駆け抜けるマラソン大会のスタート地点に立ちました。例年であれば、途中侵入してくる車に注意を促し、給水所で手伝ったり、歩いているランナーを励ましたり、コース途中で様々なことを気づかいながら21.095kmを走っていました。

今年は、ほとんど立ち止まることもなく、世界的な大会に成長したこのマラソン大会の20年を振り返りながら、感慨を持って走っていたその時、従来であれば私が「Come on !」と励ましてきたカンボジア人を励ましながらかつたものですが、今年は私に「Come on !」と励ましてくれたカンボジアの青年がいました。マラソン大会が自立したことを、私に教えてくれた言葉で、何よりも嬉しい瞬間でした。これからは「Come on !」に応えて彼らとともに歩んでいきます。

10周年プレミアムチャリティーディナー 2月19日(金) ホテルオークラ東京にて開催

カンボジア小学校体育科教育 — 自立的普及に向けた人材育成及び体制構築のための事業 (JICA 草の根技術協力事業 パートナー型)

プロジェクト・マネージャー 手束 耕治

活動報告 (2015年7月～12月):
バットアンバン地域 (コンポンチュナン州、バンテアイミンチェイ州) +
シェムリアップ地域 (コンポントム州、プレアビヒア州)

ハート・オブ・ゴールド (以下、HG) はカンボジアの教育・青年・スポーツ省 (以下、教育省) と協力し、2015年7月以降、コンポンチュナン州及びバンテアイミンチェイ州において3回目のモニタリングと公開授業を行いました。8月以降は、最後の地域となるシェムリアップ地域のコンポントム州及びプレアビヒア州において、対象校の選定、地域トレーナーの選定、体育ワークショップ、モニタリング等を実施しています。

バットアンバン地域でも、シェムリアップ地域でも、2州同時に普及しているため、人員を分ける必要が

あります。そのなかで、5地域目になると教育省担当官であるナショナル・トレーナーが自立的にワークショップを運営できていることに気がつきます。まだ、指導法やマネジメント能力に関しては、向上すべき点がありますが、こういった経験を通じて成長していくことが何より重要だと考えています。



コンポンチュナン州での公開授業

また、10月には筑波大学から岡出美則教授を招き、全15州の教育局の担当官及び教員養成校の教員を対象に、新しい体育を普及してい



岡出教授によるワークショップ

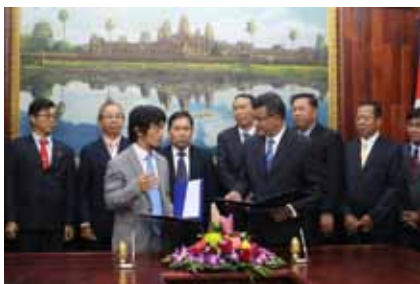
くためにはどういった視点が必要であるか、体育授業の評価をどのように考えていくか等についてのワークショップを実施しました。ワークショップ2日目には、実際に参加者が模擬授業を評価し、岡出教授が評価の考え方を指導しました。

2016年2月から、全15州の新しい体育の実施状況についての評価を実施します。2016年9月までに教育省が独自で新しい体育を普及できるよう、HGは引き続き協力していきます。

平成27年度戦略的二国間スポーツ国際貢献事業 (スポーツ・フォー・トゥモロー)

プロジェクト・マネージャー 西山 直樹

ハート・オブ・ゴールド (以下、HG) は2006年から教育・青年・スポーツ省 (以下、教育省) とともに進めてきた小学校の体育科教育支援の成果をさらに発展させる事業として、2015年10月から中学校体育科教育指導要領作成支援事業を開始しました。



教育省にてMOU (覚書) 署名式

本事業は日本国政府が掲げる2020年のオリンピック政策の一つであるスポーツ・フォー・トゥモロー

事業として実施され、2016年12月までに中学校体育科教育の指導要領を作成し、教育省の認定を取ることを目標としています。

11月には鹿屋体育大学の佐藤豊教授を招き、日本の指導要領の内容を確認しながら、カンボジアの指導要領の記載内容やスケジュールについてのワークショップを実施しました。参加型で実施したことにより、より多くの意見を出し合うことができました。

また、教育省のスポーツ総局長、国立体育・スポーツ研究所所長とともにシンガポールの体育科教育システムについての調査を目的として、同国教育省においてカリキュラムについての協議、国立教育研究所内の施設見学、担当者との協議を実施しました。シンガポールの体育科教育



佐藤教授によるワークショップ

制度だけでなく、教育全体の中での体育科教育の位置づけもわかり、カンボジアにも参考となることを多く学ぶことができました。

これから小学校体育科教育や他教科との整合性も考慮しながら、カンボジア全土で実施可能な中学校体育科教育の指導要領を、プロジェクトチームが一丸となり作成していく予定です。

ニューチャイルドケアセンター (NCCC)

磯邊 千春



サラージュガニ (おいしい教室)

NCCCでは、新たに9月に2人、10月に1人の子どもが増え、合計20人での生活になりました。

今年も昨年に続き、8月より近隣の主婦を対象にしたワークショップ「サラージュガニ (おいしい教室)」を開催しました。料理教室では栄養を考えたスープやおかゆのほか外国の料理を学び、参加者は家で家族にも作ってあげたいとしっかりとメモを取っていました。保健教室では普段体を動かすことのない参加者のため、楽しく運動するエアロビクスを取り入れたり、また看護師に来てもらい幼児期に多い病気や対処法、また大人に多い感染症についても学ぶことができました。専門的な話を聞く機会がないなか、質問もたくさん出て、自分と家族の健康のために真剣に話を聞いていました。今年度は会の始まる前に血圧の検査や身長、体重のチェックを行い、自

分の体調にも気を配れるように配慮しました。参加者からは「気になっていた病気について知ることができた。自分の健康診断をしたことがないが、いつか血液検査も含めて検査がしてみたい」といった言葉も聞こえるようになりました。NCCCの大きい子ども達も参加しているいと勉強することができました。来年もぜひ開いてほしいという意見も多く、継続していきたいと思います。

12月にはスタディツアーの方々から来訪されました。前日にはアンコールワットの周りを一緒に歩くウォーキングもありました。NCCCでは、ツアーの方々たくさん交流できるようなプログラムにするために、子ども達も準備に一生懸命取り組んでいました。子どもがガイドになっての施設内見学、喫茶店、お土産販売、クメールダンスの衣装体験、バナナの葉のコースター作りといった盛りだくさんの内容で、子ども達が主体となった交流ができました。いつも恥ずかしがってなかなかお話ができない子ども達も、その日ばかりは自分の知っている言葉で一緒にお話していました。ツアーの方々喜んでくれることに子ども達も喜びを得ら



NCCCの子ども達

れるようになりました。

また昨年に続き、TAO (東洋医学研究会) の先生方が歯の検診、治療を行ってくれました。1年間1日3回の歯磨きを心がけた結果、少しずつではありますが歯に対する意識が変わってきました。去年は歯医者さんを見ただけで泣きながら大暴れした小さな子も、今年はドキドキしながらも自分から口を開けて検診をしてもらっていました。



歯の検診・治療

今年もたくさんの方々から支えられながらNCCCの子ども達は成長しています。子ども達は、いつも自分がしてもらえばかりではなく、誰かを喜ばせること、困った人がいたら自ら手を差し出すことが、徐々にできるようになってきています。

サオピアだより

留学生 バン・サオピア

日本滞在もあと少しになりました。今年も沢山の人に出会い、沢山のことを体験しました。コンテストやコンクールでは、とても緊張しましたが努力賞を頂き、自信ができました。しかし、やはりテストはとても難しく、くじけそうになることもありました。そんな時は、ホームステイのお母さん、お世話になっている美容院の先生、お友達に励ましてもらいながら、



乗り越えていきました。2月に東京で行われたチャリティーディナーでは、沢山の方に私のお話を聞いて頂き、その後ハート・ペアレントになって頂きました。イベントでの通訳も経験しました。このように、私も誰

かの為に何かができる事がとても嬉しく思います。夏休みは、美容院でのお手伝いを毎日しました。とても忙しかったですが、よい経験になりました。9月はテストのために一生懸命勉強を頑張りました。しかし、思ったように結果が出ずに悔しい思いをしました。学校のスケジュールは、とても忙しくなっています。毎日4~5時間の実習を行っています。来年になると、すぐに国家試験がありますので、夢を叶える為に今まで以上に毎日頑張っています。

シェムリアップ日本語教室 BBU 大学 日本語講座

2000年から15年の間、シェムリアップ市近郊のチェイ村にあるチェイ小学校で継続してきた日本語教室に加えて、シェムリアップ市内にあるBBU大学(Build Bright University)内で、10月より新たに大学生や社会人向けの日本語講座を開設しました。日本語教師には、京都民際日本語学校より松野泰司先生を新たに迎え、まず午前の1クラスを10月に開講し、ついで12月から午後1クラスを追加開講しました。まだ開講したばかりなので初級クラスのみですが、次年度からは中級クラスや上級クラスも開講してい



く予定です。

日本語を学ぶ生徒の多くが、ホテルや旅行会社で働く勤労学生か、または既に卒業して働いている社会人です。どの生徒も英語は堪能で、2つ目の外国語として日本語を学ぶことで、将来の仕事の幅を広げたいと語っています。

この講座開設のために、1年前から現地調査をしてきました。まずシェムリアップ市内の4つの大学を訪問して大学の経営陣と面談し、各大学の外国語教育への取り組みを調査するとともに、日本語教育に対する熱意をヒアリングした結果、市内でも歴史が古く、生徒数4,000人と最も規模が大きいBBU大学への設置を決定しました。

シェムリアップはアンコールワットで有名な観光の街で、多くの日本人観光客を受け入れているため、街



には日本語を学んだことがある人が多く、レストランやカフェ、文房具屋ですら「こんにちは」「ありがとう」といった基本的な日本語の挨拶を話せるカンボジア人に会います。日本語への興味や関心、日本語教育熱は結構高いのです。HGが開講したBBUの日本語講座は、まだ非単位の公開講座ですが、今後は日本の大学や語学学校への留学紹介、日系企業への就職紹介など、日本語を学ぶ学生達に夢を与える学習拠点として、活動を広げていく予定です。また、カンボジア人の日本語教師も採用し、カンボジア人だけで運営できる体制構築を目指していきます。

チェイ小学校 HG 日本語教室

前任の檜尾先生が1月に退任後、しばらく中断していましたが、11月から再開しました。教師のスライノッチは、HG日本語教室で小学生のときから高校まで日本語を学び、高校生ときに岡山学芸館高校へ1年間の留学をしました。HG日本語教室で学んだOGが、成長して再び教師としてこの教室に戻ってきました。

スライノッチ先生は、初めて日本



語を教えるとは思えないほど、堂々とした態度で22名の小学生を教えています。

最初の授業は「おはようございま

す、こんにちは、こんばんは、さようなら」という挨拶と、「あいうえお」の練習でした。

補助教員のブッダ君、そしてHG日本語教室で日本語を学んできたNCCCの中学生4名が、日本語を初めて学ぶ生徒の横で発音や書き方のアシストをしています。

京都民際日本語学校から派遣されている松野先生のご指導のもと、スライノッチ先生のこれからの更なる成長に期待したいと思います。

美容ワークショップ

昨年度に引き続き、今年度もシェムリアップで美容ワークショップを継続開催しました。講師は現地在住の美容師、鈴木彰義氏。昨年のカット講座に続いて、今年度のテーマは化粧です。カンボジア人女性の最大の望みは、日焼けで黒くなった肌を白く蘇らせたいこと。

鈴木講師から、日焼け予防の継続によって、肌の新陳代謝の後には白い肌が再生するという講義を受けた後に、日本式のナチュラルメイクを教わりました。カンボジア人女性にとっての化粧は、結婚式やパーティーの時に本人と判らないぐらいに変身してしまうような厚化粧をすることですが、普段でもできるナチュラルメイクもまた可愛いということを、カンボジアの若い女性達に体験してもらいました。



この度、2010年以來5年ぶり9度目のスタディツアーに参加しました。今回はアンコールワット国際ハーフマラソン大会が20回目の節目の開催であり、どんなに変わっているかを見たくて訪れました。

まず、空港のターミナルに驚きました。以前の小屋のような建物からは、10倍以上の広さになっていると思います。それだけビジネスや観光で訪れる人も増えているということでしょう。第一回大会に来られた人によると、当時、マラソンコースはデコボコで大きな石がゴロゴロあったそうです。タイムも計れていなかったり、手書きで記録したりしていましたよねえ…。出走者も600人足らずが、今回は75カ国から過去最高の8,539人が参加したそうです。2年前に運営をハート・オブ・ゴールド（以下、HG）からカンボジア側に委譲しましたが、一つひとつの積み重ねにより任せられるようになったと思います。私も楽しんで走ることができました。

20年前と言いますと、私は阪神淡路大震災に遭いました。わが家の被害は少なかったのですが、周りの大変な方々のために何かしたいと思いつつ、子どもが2歳と5歳で幼かったため動きがとれず、自分は何の力にもなれていないという思いが拭いきれずにいました。2002年の千里マラソン前日のシンポジウムで、有森代表、田代さん、バレーボールの中村選手、大学生等によりHGのカンボジアでの活動が紹介されていました。展示写真を見ているうちに、行ってみたい、そして世界中の人達から受けた支援を今度は私が返したいと思い始め、2003年のスタディツアーに子ども2人とともに参加しました。その頃、行われていたスポーツ大会が小学校の体育指導書作成に発展し、体育の授業になり、そして今回ツアーで参加した小学校運動会へと成長し、その過程を見せてもらってきただけに、運動会は「感動！」でした。ルールを守る、協力する、応援する。みんな、できていました。よかったです。うれしかったです。何か支援をしたくて参加したツアーですが、私の方が学び、楽しませてもらっています。

2011年6月には被災地の石巻に行き、蛇田小学校の花壇の修復や民家の泥かきを行いました。小学校の音楽室で避難者の方と一緒に寝て、自衛隊のお風呂に入りました。この経験もHGの呼びかけによるもので、その後も被災地応援ツアー等で3度行かせていただきました。また、淀川国際ハーフマラソンや篠山ABCマラソンでは、チャリティグッズ販売の手伝いをしています。「チャリティグッズを買っていただいた方には、ありもりさんがサインをさせていただきますよー」と叫

主な活動報告 (2015 年後半)

- 7/3 国際交流センター展示
- 8/10-11, 13 運動会ワークショップ (CLAIR 事業、岡山市)
- 8/29 HG 長岡クラブ総会
- 8/30 ダナン国際マラソン大会
- 9/5-11/8 JICA50周年パネル展
- 9/5 三田会視察受入 (NCCC)
- 9/6 HG 福島クラブ総会・交流会
- 9/8 倉敷平成ライオンズクラブ例会
- 9/13 第9回吹田中の島チャリティ・ラン
- 9/15 岡山市立曾根小学校出前授業
- 9/24-30 カンボジア教育省研修受入 (CLAIR 事業、岡山市)
- 10/1 岡山市立京山中学校出前授業
- 10/2 岡山市立第3藤田小学校出前授業
- 10/4 親子チャリティマラソン in おもちゃ王国
- 10/27 岡山市立政田小学校出前授業
- 11/21 岡山学芸館高校・清秀中学校出前授業
- 11/29 第4回富士山マラソン
- 11/30 カンボラ事前勉強会 (講師: 小川秀樹氏)
- 12/3-8 AWHM スタディツアー
- 12/4 アンコールウォーキング
- 12/6 第20回アンコールワット国際ハーフマラソン
- 12/7 青年海外協力隊50周年記念式典 (プノンペン)
- 12/14 岡山市ESD意見交換会 (シャンティ)
- 12/15 岡山学芸館清秀中学校カンボジア研修受入 (シェムリアップ)
- 12/16 岡山学芸館高校カンボジア研修受入 (シェムリアップ)
- 12/17 岡山市立第3藤田小学校 Skype 交流 (NCCC)
- 12/19-29 カンボラ (岡山県国際貢献活動推進事業)
- 12/21 岡山市教育委員会カンボジア研修事前研修会
- 12/23 第34回山陽女子ロードレース
- 12/25-26 小学校運動会 (バタワンバン州、CLAIR 事業)

主な活動予定 (2016 年前半) 変更あり

- 1/6 岡山学芸館高校 SGH カンボジア研修受入 (シェムリアップ)
- 1/25-28 岡山市教育委員会カンボジア研修受入 (シェムリアップ・プノンペン)
- 2/19 10周年プレミアムチャリティ・ディナー (東京)
- 3/6 第36回篠山ABCマラソン (兵庫・篠山)
- 3/20 第6回淀川国際ハーフマラソン (大阪)
- HG 西日本会員交流会 (大阪)
- 4/17 第26回かすみがうらマラソン (茨城・土浦)
- HG 東日本会員交流会 (東京)
- 5/22 第32回みしま西山連峰登山マラソン (新潟・長岡)
- 5/29 Arimori Cup マラソン大会 (北海道・穂別)
- 6月 HG 総会・理事会・会員交流会

んでいるのが私ですので、通り過ぎないで声をかけてくださいね。これからもできる人ができるだけ長く活動を続けていきましょう♪ よろしくお願ひします。

第9回吹田中の島チャリティ・ラン

9月13日(日)、心配していた雨も上がり、スパンキーズによるチアリーディングに続いて、ヴァイオリン奏者の横山亜美さんの演奏のなか、3時間走とゲームリレーの参加者679名がスタートしました。その頃にはすっかり晴れて暑くなりました。家族や仲間との絆を強くする大会になりました。

ご協力頂きましたゲストランナー、後援、協賛、協力団体と多くのボランティアの方々にお礼を申し上げます。なお、当大会からの支援金は「3.11子ども animo プロジェクト」や「障がい者スポーツ」に充てられます。

次大会のお知らせ：通算30回目となる第10回大会をラスト・ランとして開催し、終焉と致します。皆様のご参加をお待ちしています。

開催予定日：2016年9月11日(日)

募集定員：3時間走 430名 / ゲーム・リレー 70チーム

募集期間：1次募集 (リピーターエントリーの方のみ)

3月中旬～4月中旬頃

2次募集4月中旬頃から7月 (先着順)

参加賞：HG 有森代表デザインのTシャツ

(ゲーム・リレーはチームに1着)

※追加購入は、事前の申し込みに限り可。

詳細は追って更新の吹田中の島ランナーズのホームページ (<http://sutv.zaq.ne.jp/snr/>) にてご確認ください。

事務局からのお知らせ・お願い

●HG会員募集!

本年度も活動に賛同して下さる会員さんを募集しています。お知り合いの方がいらしたら、ぜひお誘いください。

●ボランティア・インターン募集

本部事務局では、ボランティアを随時募集しています。簡単な事務作業から、イベントのお手伝いなど、各自のご都合に合わせてご参加いただけます。

●新スタッフ紹介

本部事務局に正岡睦美(8月より)が加わりました。皆様よろしくお願ひします。

※ HG は認定 NPO 法人ですので、寄付金は、個人・法人を問わずすべて寄付控除が受けられます。相続または遺贈による寄付には相続税が課税されません。

かざして募金

*「かざして募金」のお願い。アプリをインストールして立上げ、HG のロゴマークにかざして画面をタッチ。ご希望の金額を選んで寄付をお願いします。

●未使用の切手・書き損じはがきを送ってください。事務経費が削減でき、その分活動費に充てることができます。